

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	静岡県立大学ならではのお茶によるアイデンティティの向上				
研究組織	代表者	所属・職名	食品栄養環境科学研究所 茶学総合研究センター・特任教授	氏名	中村 順行
	研究分担者	所属・職名	静岡県茶業研究センター・センター長	氏名	小林 栄人
		所属・職名	静岡県茶業会議所・専務理事	氏名	伊藤 智尚
		所属・職名	静岡県お茶振興課・課長	氏名	佐田 康稔
		所属・職名	静岡 JA 経済連茶業部・部長	氏名	清水 直也
		所属・職名	茶学総合研究センター・客員研究員	氏名	海野 けい子
		所属・職名	茶学総合研究センター・助教	氏名	斎藤 貴江子
	発表者	所属・職名	食品栄養環境科学研究所 茶学総合研究センター・特任教授	氏名	中村 順行

講演題目	静岡県立大学ならではのお茶によるアイデンティティの向上
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>目的</p> <p>コロナ禍により社会は大きく変化しているが、茶学総合研究センターではこれまでと同様、毎月上食堂前でコロナ感染には細心の注意を払いつつ月替わりにお茶を提供したり、下食堂には呈茶コーナーを常設している。また、留学生にはおもてなし茶会など通じて実り豊かな留学生生活を楽しんでいただくようにしている。さらに、学内での活動のみならず草薙カルテットと連携し、草薙駅前の広場やタクトで「草薙ほのぼの day お茶会」などにも参画し、お茶による大学と地域連携強化を図っている。また、昨年は学生自らのお茶サークル「Oshan TEA」の剣祭への参加や「学生に美味しいお茶を」プロジェクトによるグッズの作成など行ってきた。このような地道な活動を継続化することにより、県立大学に芽生え始めたお茶の愉しみをさらに増やすとともに、お茶による県立大学へのアイデンティティもより一層深めるなかで、実りある学生生活につなげていくことを目的とする。</p> <p>成果</p> <p>県立大学に芽生え始めてきたお茶への愛着、愉しみをさらに強化するとともに地域との連携を深めつつ大学からの幅広い情報発信を行うことで茶産業振興への寄与はもとより、学生には実り豊かな学生生活を送れるよう下記の取り組みを重点化して行い大きな成果を得た。</p> <p>(1)お茶に関する幅広い情報の発信：しずおか学「茶学入門」や県民・業界関係者などへのセミナー、大学間連携によるふじのくに学「茶学」などを活用し県大発の情報を発信した。</p> <p>(2)美味しいお茶を愉しむ方法の発信：Free Tea Café の開催や食堂での各種お茶の提供を行うとともに、急須がなくても美味しく飲める方法やお茶に関する楽しみ方などを提案した。</p> <p>(3)国際学生寮において日本茶を愉しむ：国際学生寮の留学生を中心にお茶を通じて日本を学ぶとともに実りある学生生活を楽しみアイデンティティを高めることができた。</p> <p>(4)お茶による地域との連携強化：お茶を介して学生による地域活性化に向けた活動支援や学内に芽生えた自主的なお茶サークルの活動をサポートした。</p> <p>今後の展望</p> <p>茶学教育による人材育成を進めるとともに、茶を素材として、産官学が連携し社会のニーズに即した研究開発から実用化、利用場面に対応し、他大学には見られない地域大学としての特色、差別化の強化を可能とするために、これまで以上にお茶による県立大学へのアイデンティティを高めることを目標に今後も活動する。</p>